

SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラムユーザーインタビュー

■AI パネル⑰

中村 (37) / 司法書士

- 属性：北海道札幌市中央区。専門職。既婚。
- 美容タイプ：美容高感度層
- 購入チャネル：百貨店オンライン
- 購入の動機：北海道の厳しい冬の乾燥と、加齢による小じわ対策。SHISEIDO MEN の最高峰美容液でしっかり「守り」を固めたいと考えた。
- 現状：黒ボトルの重厚感が、重い書類を扱う自分のデスクにあっても浮かないのがいい。CMでの松嶋菜々子さんの眼差しを思い出し、品位ある大人でありたいと背筋が伸びる。

<結果サマリー>

プロとしての品位にこだわる司法書士、CMの「理想の大人像」やボトルに惹かれ、最高峰のケアによる「攻めの守り」を期待

- 1. 美容についてのこだわり** 札幌で司法書士として活躍する対象者は、自身の「美意識」を単なる外見の整えではなく、プロとしての「信頼」や「品位」を担保するための不可欠な投資と捉えている。日々の生活においてもスーツの手入れや睡眠の質にこだわり、「隙を見せない」佇まいを追求。彼にとってスキンケアは、過酷な環境下でも自分を律し、仕事に向かうための「精神的なコンディションを整えるスイッチ」としての役割を強く担っている。
- 2. 普段のスキンケアと目指す肌** 朝晩でブランドを使い分けるほど美容感度が高く、エステ等も併用する対象者が目指すのは、単なる若返りではなく「枯れていない肌」である。神経をすり減らす業務や北海道の厳しい乾燥の中で、肌の衰えを「余裕のなさ」と直結させて危惧している。「シワがない若作りをしたいわけじゃない」と語る通り、内側から押し返すようなハリと清潔な艶を、現役感やプロとしての品格を象徴する重要な指標として位置づけている。
- 3. 現使用美容液購入経緯** 購入の契機は、冬の到来による乾燥への危機感と、CMが提示した「理想の夫婦像・大人像」への共鳴である。以前は化粧水と乳液のみであったが、30代後半になり「10年後の自分に顔向けできない」という切実な恐怖感から、最高峰のケアによる「攻めの守り」を決断。百貨店オンラインでの購入を決めたのは、その機能性のみならず、重厚な書類が並ぶデスクに置いても「プロの道具として浮かない」ボトルの品格に惹かれたためであった。
- 4. 現使用美容液使用実態と評価** 洗顔直後の「土台」として真っ先に本品を導入し、重力に抗うように引き上げる独自の儀式を習慣化している。使用後は、過酷な外気から「内側の水分が守られている実感」を強く得ており、5段階評価で満点の満足度を示す。単なる保湿を超え、鏡の前で「武装」が完了したとを感じる瞬間が、彼のプロとしての自信を支えている。対象者にとって本品は、肌を整える以上に「自分自身の尊厳を保つための装置」となっている。
- 5. 現使用美容液 今後の使用意向** 今後も継続意向は極めて高く、厳しい環境を共に乗り切った「実績」から、既に代えがたい「相棒」としての地位を確立している。使い続けることで、将来にわたって周囲から一目置かれる「品格のある肌」を維持できるという強い期待を寄せている。要望として挙げられた「さらなる

無機質さ」への期待は、本品を単なる化粧品ではなく、自己のパフォーマンスを最大化するための「スタイリッシュな道具」として愛用している証左と言える。

1. 美容についてのこだわり

インタビュアー：

今日は中村さんの美容に対するお考えや、普段お使いのアイテムについて、ざっくばらんにお話を伺えればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

対象者：中村です。よろしくお願いいたします。

インタビュアー：ありがとうございます。まずは中村さんのことについて少し伺わせてください。札幌で司法書士をされているとのことですが、普段のお仕事の様子や、ご自身の美容について、普段からこだわっていることがあれば教えていただけますか？

対象者：仕事は不動産登記や相続関係がメインで、毎日かなりの分量の書類と向き合っています。美容に関して言うと……そうですね、この仕事は信頼がすべてだと思っているので。清潔感はもちろんですが、相手に「この人に任せて大丈夫だ」という安心感や、品位を感じてもらえるような佇まいでいることは常に意識しています。スキンケアもその一環ですね。

インタビュアー：「品位」や「安心感」を大切にされているのですよね。スキンケア以外にも、何かこだわっている習慣などはありますか？

対象者：身だしなみ全般ですね。スーツのプレスや靴の手入れ、あとは食事や睡眠の質も。札幌は冬の乾燥が本当に厳しいので、肌がカサついているとそれだけで疲れて見えてしまう。「隙を見せない」と言いますか、年齢相応の、あるいはそれ以上の自分を維持するための投資だと思っています。

インタビュアー：隙を見せないための投資、ですか。具体的に中村さんが「これは自分の美容の軸だな」と感じる瞬間はどんな時でしょう。

対象者：……朝、鏡を見て、肌にハリがあってピシッとしている時ですね。それだけで、その日一日の仕事に向かう覚悟が決まるというか。「よし、今日もプロとして向き合おう」と思える。単なる見た目の問題以上に、自分の精神的なコンディションを整えるスイッチのようなものかもしれません。

インタビュアー：なるほど。

2. 普段のスキンケアと目指す肌

インタビュアー：

では、中村さんの普段のスキンケアについて具体的に伺いたいのですが、朝、洗顔をした後に肌につけているものを、ブランド名も含めて順番に教えていただけますか？

対象者：朝は時間がないのでシンプルですが、まずは導入として、今お話ししている「SHISEIDO MEN アルティミューン」の美容液をつけます。その後に「SK-II MEN」のフェイシャル トリートメント エッセンス、最後に「キールズ」のクリーム UFC で蓋をする、という流れですね。

インタビュアー：朝は「アルティミューン」「SK-II」「キールズ」の順なのですね。では、夜はどうでしょう。クレンジングや洗顔の後に使うものを教えてください。

対象者：夜は少し工程が増えます。洗顔後にアルティミューンを塗るまでは同じですが、その後に「SHISEIDO」のオイデルミン エッセンスローション、それから「コスメデコルテ」のリポソーム アドバンスト リペアクリームをしっかりと塗り込みます。

インタビュアー：夜はブランドが変わるのですよね。毎日ではないけれど、時々行うようなスペシャルケアなどはありますか？

対象者：週に一度、札幌駅近くの百貨店にあるメンズエステに通っています。自分では落としきれない汚れを取ってもらったり。自宅では、特に乾燥がひどい夜に「クレ・ド・ポー ボーテ」のシートマスクを使うこ

ともあります。一枚で数千円しますが、翌朝の肌の「密度」が全然違うので。

インタビュアー：エステや高価なマスクも取り入れられていると。そういった日々のケアを通して、最終的に中村さんは、どのような肌の状態を目指していらっしゃるんですか？

対象者：……「枯れていない肌」ですね。司法書士という仕事柄、どうしても神経をすり減らしますし、北海道の冬は油断するとすぐに肌が粉を吹いたようになります。そうなる、途端に「苦労している人」や「余裕のない人」に見えてしまう。シワが一本もない若作りをしたいわけじゃないんです。ただ、内側から押し返すようなハリがあって、清潔な艶がある。そういう肌でいることが、プロとしての「現役感」や「品格」に繋がると思っています。

インタビュアー：若作りではなく、現役感や品格、ですか。具体的に、どういう瞬間に「あ、今の自分の肌は品格があるな」と感じたり、逆に「枯れているな」と感じたりするのでしょうか。

対象者：夕方、事務所の窓に映った自分の顔を見た時ですね。疲れて頬がこけて見えたり、目元が乾燥でシボシボしていると「ああ、今日は負けているな」と。逆に、過酷な環境でも肌がピタツとしていて、潤いが留まっているのを感じると、自分自身の内面まで守られているような、強い気持ちになれるんです。

3. 現使用美容液購入経緯

インタビュアー：ありがとうございます。では、今お使いの「SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラム」について詳しく伺いたいのですが、この商品を最初に知ったきっかけは何だったのでしょうか。

対象者：……CM ですね。反町隆史さんと松嶋菜々子さんがご夫婦で出られているのを見て。あの、松嶋さんが反町さんを見る眼差しがすごく印象的で。自分もあんな風に、隣にいる妻から品位を感じてもらえるような、凛とした大人でありたいなと直感的に思わされたんです。

インタビュアー：あの CM での、奥様の眼差しが印象に残ったのですか。初めて知った時、商品自体にはどのような印象を持ちましたか？

対象者：正直に言えば、「高価だな」と。でも、それと同時に「資生堂のメンズの最高峰」という響きに、強い説得力を感じました。札幌の厳しい冬を乗り切るには、中途半端なものではなく、一番いいもので「守り」を固めたいという心理が働いたんだと思います。

インタビュアー：なるほど。知ってから実際に購入するまで、どのように検討されたのでしょうか。何か他の情報を見たり、どなたかに相談したりしましたか？

対象者：ネットで口コミや成分は一通り調べました。ただ、最終的には自分の直感を信じて百貨店のオンラインサイトで購入しました。司法書士という職業柄、普段から重厚な書類や印鑑を扱っているのも、あの黒いボトルのデザインが、自分のデスクに置いてあっても違和感がない、プロの道具としての佇まいを備えていると感じたことも大きかったです。

インタビュアー：プロの道具としての佇まい、ですか。そもそも、美容液自体は以前からお使いだったのでしょうか。

対象者：いえ、実は美容液をしっかりと取り入れたのはこれが初めてに近いです。それまでは化粧水と乳液だけで済ませていました。

インタビュアー：それまでは使っていなかった美容液を、今回あえて取り入れようと思ったのは、何か決定的な理由があったのですか？

対象者：30代後半になって、これまでのケアだけでは追いつかない「肌の衰え」を無視できなくなったから

です。小じわや乾燥が、単なる疲れではなく「定着」し始めている恐怖感というか。今のうちに最高峰のケアで食い止めておかないと、10年後の自分に顔向けできないなど。だから、ただの保湿ではなく、肌の基礎体力を上げるような「攻めの守り」が必要だと感じたんです。

インタビュアー：冬を乗り切るための備えとして、あのCMが心に残ったのですね。中村さんがそのCMをご覧になったのは、具体的にいつ頃のことでしたか？

対象者：……去年の11月に入ったばかりの頃だったと思います。札幌ではちょうど初雪が降るか降らないかという時期で、急に空気が冷たくなって。「ああ、今年もまたあの乾燥する季節が来るな」と身構えていたタイミングでした。そんな時に、テレビであのご夫婦の、こう……落ち着いているけれど温かみのあるやり取りを見て。冬の厳しさに負けない、余裕のある大人というイメージが、その時の自分の不安にスッと重なったんだと思います。

インタビュアー：冬が始まる不安と、CMのイメージが重なったと。それから、先ほど「デスクに置いてあっても違和感がない」とおっしゃっていましたが、実際に美容液をお仕事のデスクに置いていらっしゃるのですか？

対象者：……いえ、流石にそこで顔を洗って一からケアをするわけではありません（苦笑）。ただ、実はこの美容液、仕事の合間にも使うことがあるんです。

インタビュアー：仕事の合間に、ですか。

対象者：はい。午後の遅い時間、複雑な案件が続いて「少し疲れたな」と感じる時に、洗面所で軽く顔を洗ってから、デスクに戻ってこれをワンプッシュだけ馴染ませることがあります。あの深い紺色のボトルは、万年筆や重厚なバインダーが並ぶ私のデスクに置いてあっても、美容品というよりは「プロの道具」の一つに見えるんです。その香りを嗅いで、肌にスッと馴染む感覚を味わうと、また背筋が伸びて、冷静に書類に向き合える。私にとっては、仕事のパフォーマンスを維持するための、リフレッシュ剤のような役割も果たしていますね。

4. 現使用美容液使用実態と評価

インタビュアー：今の使い方について伺いたいのですが、この美容液を肌に乗せる際、ご自身で意識されている手順や、手の動かし方などはありますか？

対象者：まず、手のひらで少し温めてから、顔全体に広げるようにしています。特に小じわが気になる目尻や、乾燥しやすい口周りには、指の腹を使ってトントンと軽く叩き込むようなイメージですね。それから、最後は手のひら全体で顔を包み込んで、グーッと上に持ち上げるように。

インタビュアー：上に持ち上げるように。なぜ、その付け方を意識されているのでしょうか。

対象者：……「浸透しろ」と念じているのもありますが（笑）、やはり重力に負けたくないという気持ちが強いんだと思います。仕事で神経を使っていると、どうしても表情が険しくなったり、顔が下がってくる感覚があるので。この重厚なセラムを塗り込みながら引き上げる作業は、自分自身の「尊厳」を保つための儀式のようなものかもしれません。

インタビュアー：自分自身の尊厳を保つための儀式。では、この商品に対する現在の満足度を5段階で評価すると、どのくらいになりますか？

対象者：5段階なら「5」です。文句なしですね。

インタビュアー：その「5」という評価の理由、特に満足されているポイントを教えてください。

対象者：一番は、やはり「守られている実感」です。札幌の氷点下の外気から暖房の効いた室内に入っても、

肌が突っ張らない。それから、先ほども言いましたが、あのボトルの質感。手に取った時の適度な重みが、「自分は今、最高のものを使っている」という確信をくれる。物足りない点があるとすれば、……強いて言えば価格ですが、このクオリティを維持するためなら納得せざるを得ないな、と。

インタビュアー：どんな瞬間に、特にその満足を感じる人が多いですか？

対象者：朝のケアを終えて、ネクタイを締めるために鏡の前に立った瞬間です。肌に艶があって、影が目立たない自分の顔を見ると、今日一日を乗り切るための「武装」が完了した気分になります。この商品は、ただ肌を整えるだけじゃなく、私の「プロとしての自信」を補強してくれている。それが最大の魅力だと思います。

インタビュアー：なるほど。ちなみに洗顔後、他の何よりも先にこのアルティミューンを最初につけるといふ順番について伺いたいのですが、なぜその順番にしようと思われたのですか？何か具体的な理由や、きっかけがあったのでしょうか。

対象者：……直感的なものもありますが、この美容液の「浸透の速さ」を知ってからですね。初めて使った時、洗顔直後のまっさらな肌にこれがスッと吸い込まれていく感覚がすごく心地よくて。後から使う SK-II のエッセンスを迎え入れるための「土台」を、このアルティミューンが真っ先に整えてくれているような気がしたんです。

インタビュアー：土台を整えてくれている、という感覚。

対象者：はい。それと、やはりこれが私にとっての「最強の盾」だという意識があるからかもしれません。一番無防備な状態の肌に、まずは一番信頼している「SHISEIDO MEN の最高峰」を直接触れさせたい。そうすることで、北海道の乾燥という外敵から肌の芯を守る、確実なバリアを張っているような……精神的な安心感が違うんです。もしこれを後回しにしたら、その効果が薄まってしまうような、どこか「勿体ない」という感覚すらありますね。

5. 現使用美容液 今後の使用意向

インタビュアー：今後のことについて伺わせてください。この美容液を、今後も使い続けたいと思われませんか？5段階でお答えください。

対象者：これも「5」ですね。使い続けたいです。

インタビュアー：その理由は。

対象者：……代わりがない、というのが正直なところです。もちろん他にも良いものはあるんでしょうけど、札幌の冬をこれだけ心強く支えてくれたという実績が、私の中では何物にも代えがたい。使い続けることで、この先40代、50代になっても、「現役」の、……そうですね、妻や周囲からも一目置かれるような、品格のある肌を維持し続けられるんじゃないかと期待しています。

インタビュアー：他に興味を持っている美容液などはありますか？

対象者：今は特にないですね。以前は「SK-II」の美容液も検討したことがありますが、今の私にはこの「アルティミューン」の持つ、ある種のストイックな力強さ、……守るだけじゃなく、自分の士気を高めてくれるような感覚が合っている気がします。

インタビュアー：最後に、この商品に対して、何か要望などはありますか。

対象者：……強いて言うなら、もう少しだけ香りが、さらに抑えめでもいいかもしれません。今の香りも決して嫌いではないですし、リフレッシュにはなるんですが。より「無機質な道具」としての側面が強まると、私のデスクの上での存在感も、より研ぎ澄まされるのかな、なんて思います。

インタビュアー：香りをより抑えめに、ですか。

対象者：ええ。ただ、今のままでも十分に私の生活の一部になっています。これからも、プロとしての自分を支える「相棒」として、長く付き合っていきたいと思っています。

<追加質問>

インタビュアー：クレ・ド・ポー ボーテのマスクや週1回のエステなど、以前からかなり入念にケアをされていますが、この美容液を使い始める前と後で、肌の調子などに何か具体的な変化は感じられましたか？

対象者：……一番明確なのは、夕方の「肌の踏ん張り」ですね。以前は、どれだけ夜に高級なマスクをしてエステに行っても、札幌の冬の乾燥したオフィスで一日中書類と向き合っていると、夕方にはどうしても肌が萎んで、小じわが目立ってくるのが悩みでした。いわば「貯金」を切り崩しながら一日を過ごしているような感覚で。

インタビュアー：以前は、貯金を切り崩すような感覚だったと。

対象者：ええ。それが、このアルティミューン朝の洗顔直後に差し込むようになってからは、肌の基礎体力が底上げされたというか。外気や暖房にさらされても、内側の水分がしっかりホールドされている実感があります。夕方に鏡を見た時に「あ、まだ大丈夫だ、崩れていない」と思える回数が格段に増えました。

インタビュアー：具体的に、どのあたりの変化が一番大きいですか？

対象者：目元と口元ですね。以前は乾燥で皮膚が薄く硬くなる感じがありましたが、今は一日中しなやかさが残っています。大きな変化というよりは、良い状態が「持続する」という安心感を手に入れたことが、私にとっては非常に大きいです。